

# 鉄道高架下を活用したまちづくりプロジェクト 「TauT（トート） 阪急洛西口」

「行きたい 住みたい

KYOTO 洛西口」を目指して

はじめまして、トートです。

京都・洛西エリアの玄関口である阪急洛西口駅周辺に

トート 阪急洛西口が誕生します。

洛西口は西山の美しい山並みが広がり

そこにはのびやかな時間が流れています。

大原野野苺やたけのこの生産地として

豊かな自然が魅力のエリアです。

TauT（トート）の名称は、

ペアで成なる高架の柱を表すTとTがつくともう一つ、

人と人が出会う（ユウ）ことを表現しています。

訪れる人が思い通りに時間を過ごすことで

毎日の暮らしが今よりも便利で楽しいものになる

京都の食文化を体験し、学びや交流が生まれる

自転車で少し足をのばして

洛西口エリアの魅力を見つめ直す。

TauT 阪急洛西口は、

この街が「訪れたい」「住みたい」「住み続けたい」と  
思っていただけでもエリアとなることを目指しています。

## 阪急電鉄株式会社

### 京都府 京都市西京区および向日市

(阪急京都線洛西口～桂駅間高架下)



# 1. 背景・開発コンセプト・経緯・エリア名称

## 背景

阪急洛西口～桂駅間の連続立体交差化事業（鉄道高架化）により2015年に総延長約1kmの高架下空間（土地所有者：阪急電鉄）が生み出された。

その後、長期的なまちづくりの視点で周辺エリア全体の活性化につなげることを目指し、京都市と阪急電鉄において2015年12月に包括連携協定を締結し、新たなモデルケースとすべく高架下空間の活用に取り組んできた。

整備計画を検討する段階においては、京都市と共に近隣住民の皆さまとのワークショップ等を開催するなど活発な議論を重ね、地元の方々からの意見を可能な範囲で反映させた整備計画とした。

## 開発コンセプト

**「行きたい 住みたい KYOTO 洛西口」**  
**～ヒトとヒトをつなぐエキはマチの縁側（えんがわ）～**

## 経緯

- 2015年度 鉄道高架 切替完了、京都市と阪急電鉄にて「包括連携協定」を締結
- 2016年度 整備計画検討（ワークショップ等を開催し地元の方々の意見を集約）
- 2017年度 整備計画の概要発表
- 2018年度 1期エリアオープン
- 2019年度 2期エリアオープン
- 2020年度 3期エリアオープン（全面開業）
- 2021年度 まちづくりに資するソフト面の取組を継続中

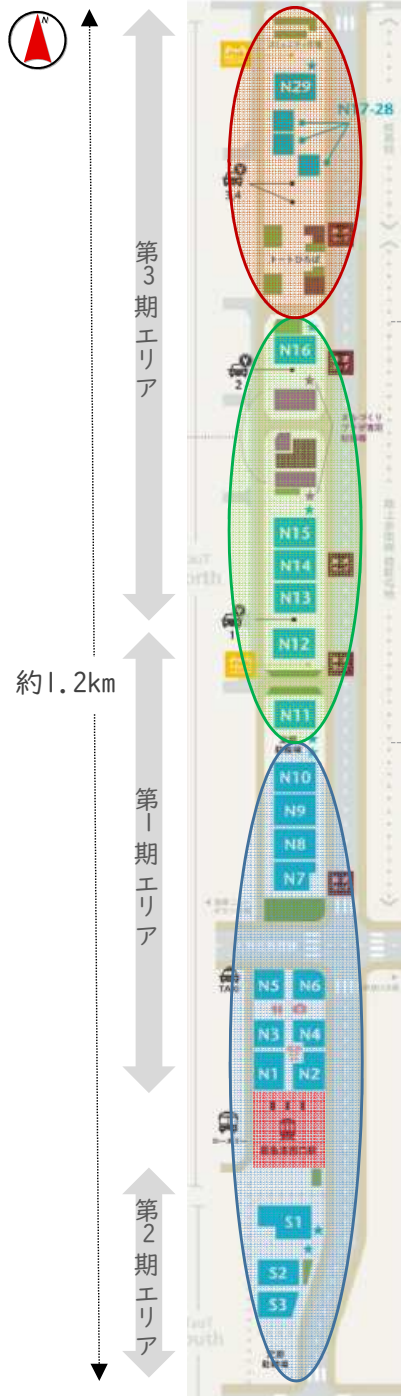
## エリア名称

**TauT（トート） 阪急洛西口**

“ヒトとヒトをつなぐ”エリアにしたいという想いを表現。「人-人」がカタカナ表記の「トート」とも読めることや、「T」を高架の柱に見立てて、その間で人が「au（会う）」ことを、それぞれデザインでイメージ。また、英単語の「taught（teachの過去分詞形）」の響きを連想し、“教え合う、学び合う”エリアにしたいという願いも込めている。



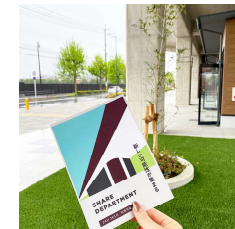
## 2. 全体ゾーニング・各エリアの機能



### (駅から遠いエリア)

**【小商い等のチャレンジショップ、シェアオフィス、コワーキング】**  
 地域での創業支援に資するコンテンツを誘致。ここに関わるクリエイティブ人材や新規事業者、社会起業家が当該エリアでの様々な活動に参画する機会が増え「関係人口」となり、クリエイティブなシナジーを期待。

**【オープンスペース、花壇の整備】**  
 地域住民・学校・企業・団体の活動を寛容に受け入れる場として、イベントや各種活動の実践の場となることを願い、約90mのオープンスペースやコミュニティ花壇を整備。ここで人・モノ・情報が交流することで協働・共創が促進され、一時の賑わいだけでなく、持続的な賑わいの源泉ともなる新たな文化・地域活動が生み出されることを目指す。



創業支援  
 文化・コミュニティ  
 住民参加

### (高架下エリアの中心)

**【公共施設「京都市交流促進・まちづくりプラザ」】**  
 高架下エリアの中央付近に「キッズランド」「多目的室」「ライブラリー」「カフェ」からなる複合型公共施設を配置。(※京都市と阪急電鉄による包括的連携協定に関係するまちづくりに資する施設)

**【スポーツ・趣味や学びのコンテンツ】**  
 音楽教室、カルチャースクール、子供向けのプログラミング教室・体操教室、E-バイク特化型のサイクルショップ、ランニングジム、卓球施設といった、遊びを通じて学べる施設を誘致。近隣の方々に豊かなライフスタイルを提案しながら、共通の趣味を通じた新たなコミュニティが生まれることも期待。



公共施設  
 習い事・教室  
 スポーツ関連

### (駅から近いエリア)

**【地元の企業・店舗を誘致し地域の魅力を発信】**  
 なるべく地元京都で活躍する事業者にこだわって、地域の魅力を再発見できるような個性的な店舗を誘致。駅の利便向上に資する食物販・飲食・サービス店舗（クリーニング、ATM、動物クリニックなど）を配置。

**【エントランス空間の整備】**  
 近隣住民や来訪者の滞在を促すために、人の往来が多い駅付近において、ベンチのあるオープンスペースを整備。そこに植栽を配置するなどエリアの環境向上にも寄与。また、イベント利用による賑わいづくりの場としても期待。



食物販・飲食  
 スーパー  
 生活サービス

# 3. 地域と連携した各種取組について

## 野菜マルシェ「西山の恵み」

洛西エリアの豊かな自然を再認識してもらうため、現地のNPO法人が主催する、地元農家団体と連携して地元のとれたて野菜を販売するミニマルシェを誘致。夏野菜と冬野菜の年に2度（計20回ほど）実施。2021年度より、阪急電鉄の収益は、京都の青少年の健全な育成に貢献する団体に全額寄付を行い、地域の活性化にも貢献。また、地元新鮮な野菜を購入だけでなく、販売スタッフから調理方法やおいしい野菜の選び方を聞けるなど、様々なコミュニケーションの場としても機能している。



## 近隣の学校との連携

「コミュニティ花壇」の花苗を農業系学科のある京都府立桂高等学校より購入し、高校生による花壇での定植実習を季節ごとに年3回実施。また、リアカーを引き近隣の方々に農産物を販売する実習を行っていた高校生に対して、洛西口駅改札前スペースを販売実習の場として無償提供。「校門の前などで行っていた従来の販売実習ではできない体験ができた。」という生徒の声も頂いた。将来的には、地域の学生同士、学生とシニア、学生と子どもなど多様な関係性の構築と、それによる豊かな地域コミュニティの形成を目指す。



## 地域案内マップ&シェアサイクル

地域の魅力を発信し周辺エリアへの回遊を促すことを目的に、地元のフリーペーパー事業者に制作を依頼した地域案内板をトート阪急洛西口内に5カ所設置。一つ一つマップのコンセプトを変え、徒歩・自転車・車など、様々な交通手段で楽しめる内容としている。テナントである(株)あさひが運営するシェアサイクルでの移動を促進すべく、約1kmの高架下エリアに2カ所のシェアサイクルステーションを確保。サイクルツーリズムの拠点となることも目指す。



## セミナーイベント「洛西高架下大学」

地域の交流促進を目的とした、誰もが自由に参加できるセミナー・交流型イベント。人が行き交う駅の高架下をキャンパスに見立てて、2019年2月から開催しており、年6回程度実施している。現在はオンラインにて約30人でまちづくりに関するテーマをもとに学び合いながら交流している。まちづくりの議論の場とするとともに、地域のまちづくりプレイヤーを発掘し、協働を促すことで地域の活性化につなげている。



## 「洛西高架下大学 研究室コース」

「洛西高架下大学」から派生して、セミナーや対話からヒントを得て生まれたアイデアを実践する場として2020年4月より実施。日ごろ洛西エリアで活動されている方々を対象に、地域のNPO法人のサポートのもと、自身が実現したいアイデアをトートで実践してもらう、並走型のセミナー。現在は年に2回実施し、1回につき約5団体が参加。研究室コースのセミナー終了後には「トートの文化祭」と名付けた発表の場を設け、イベントを実施してもらうことで、まちづくり活動を活性化させている。



## 「洛西高架下サークル」

トートを活動拠点とする地域の方々によるサークル活動。より一層、トートが地域の拠り所となることを目指しており、各サークルの情報発信をサポート。地元のNPO法人に運営管理を委託しており、活動したい方は、企画内容の相談や人的コーディネート等のサポートが受けられる。現在、「ひまわり部」と「ボードゲーム部」の2つのサークルが存在し、地域の方のコミュニケーションの場となっている。

